

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和2年第Ⅱ四半期（4～6月）

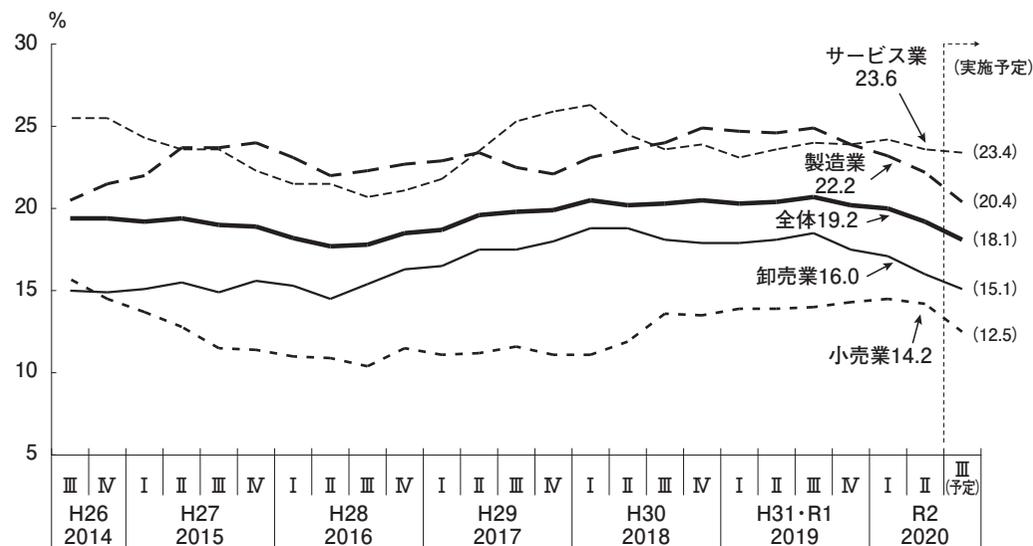
設備投資：全業種で減少 **資金繰り：2期連続で大幅に悪化**
採算状況：2期連続で大幅に悪化 **雇用人員：均衡に近づく**

■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（令和2年4～6月）に設備投資を「実施した」割合は全体では19.2%となり、前期（令和2年1～3月）の20.0%から減少した。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合は全業種で減少した。なかでも、製造業22.2%（前期23.2%）と卸売業16.0%（同17.1%）は大きく減少した。

図表1-1 設備投資の実施割合の推移 —後方4四半期移動平均—



注) 来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

来期（令和2年7～9月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では18.1%となり、当期と比べて減少する見通しとなった。

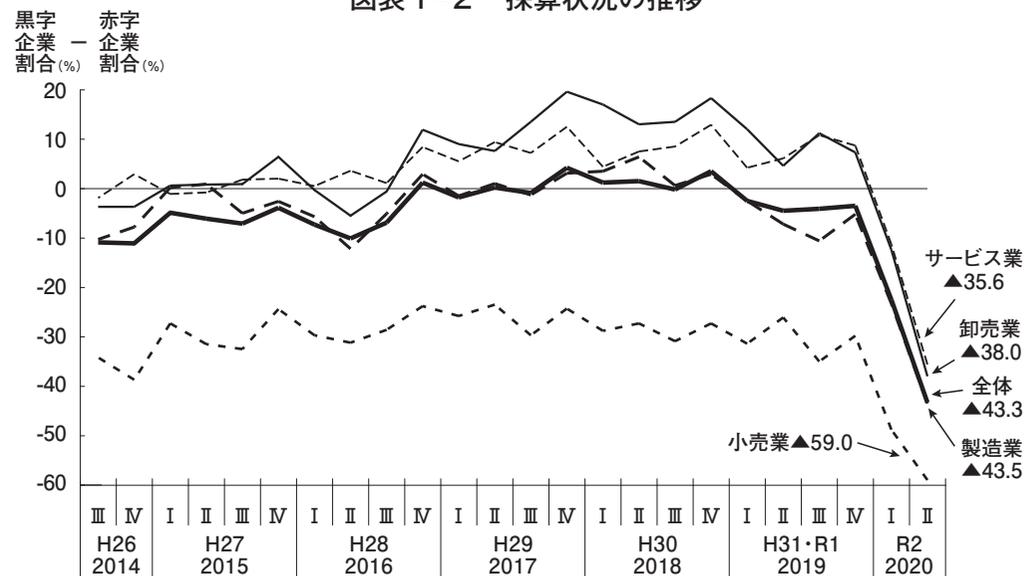
業種別にみると、製造業20.4%、小売業12.5%、卸売業15.1%は大きく減少、サービス業23.4%はわずかに減少した。

■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合で見ると、全体では▲43.3（前期▲22.5）となり、2期連続で大幅に悪化した。

業種別にみると、全業種で赤字企業の割合が黒字企業の割合を上回った。

図表1-2 採算状況の推移

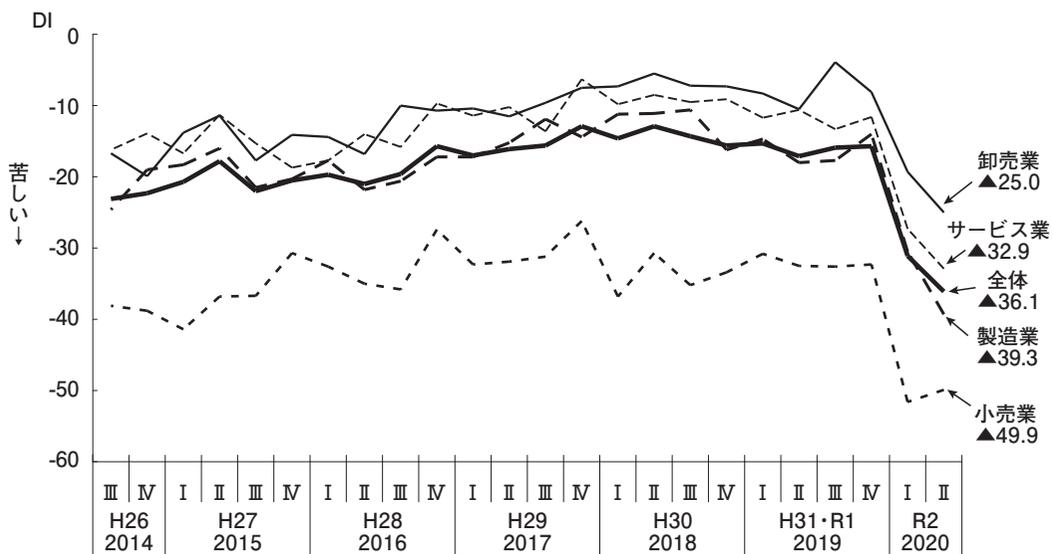


■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）で見ると、全体では▲36.1（前期▲31.1）となり、2期連続で大幅に悪化した。

業種別にDI値をみると、製造業▲39.3（同▲30.5）は8.8ポイント減少、卸売業▲25.0（同▲19.3）は5.7ポイント減少、サービス業▲32.9（同▲27.3）は5.6ポイント減少し、いずれも大幅に悪化した。一方、小売業▲49.9（同▲51.6）は1.7ポイントとやや改善した。

図表 1-3 資金繰りDIの推移



■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）でみると、全体では0.1（前期7.7）と前期に引き続き大幅に不足感を弱め、均衡を示すゼロ値に近づいた。

業種別にDI値をみると、製造業▲12.1（同3.1）は15.2ポイント減少、卸売業▲0.2（同5.3）は5.5ポイント減少し、過剰感が強まった。サービス業12.3（同19.7）は7.4ポイント減少し、不足感が弱まった。一方、小売業1.4（同0.7）は0.7ポイントわずかに増加した。

図表 1-4 雇用人員DIの推移

